

2024

6.12 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_1PJ9lnZbR1uTicI7CbLf0Q

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

今、九州の奥山で起こっている森林劣化 - シカの増加とササの消失 -

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

土壌微生物

森林生態系

ブナ

下層植生

宮崎演習林

土壌侵食

片山 歩美 准教授

農学研究院

兵庫県神戸市出身。九州大学農学部および修士課程を卒業。東京での3年間の民間企業での経験を経て、九州大学生物資源環境科学府にて博士号を取得。その後、北海道大学フィールド科学センター森林圏ステーションの教育関係プログラムの特任助教を経て、2015年に九州大学大学院農学研究院の助教に着任しました。修士課程より、高校の時からのご縁であったマレーシア熱帯雨林での研究を始め、今でも研究を継続しています。北海道大学でも九州大学でも、大学演習林という組織に所属し、大学キャンパスから遠い演習林事務所に勤務しています。北海道大学時代は名寄市に住み、マイナス20度の世界を経験しました。現在は宮崎県椎葉村にある宮崎演習林に勤務しています。研究のフィールドが森林なので、まさにすぐにフィールドに行ける環境で日々過ごしています。最近、シカが増加したことによりもともと繁茂していたササがなくなり、それが森林生態系にどのような影響を与えるのかを調べています。

近年、全国的にシカの個体数が増加しています。森林には一般的に地面を覆うような植物（下層植生）が生育しています。シカが増えると、それらの下層植生を全て食べてしまいます。下層植生は森林の土壌を侵食から守る効果があります。下層植生がシカによって食べられ消失してしまうと、土壌流出が一気に起こります。九州南部の山岳地域では、もともとスズタケなどのササ類が地面を覆っていて、九州では珍しいブナ林が広がっていました。しかし1980年代頃からシカが増え始め、ササの消失した森が多くなってきました。九州大学宮崎演習林では、200歳を超える大きなブナの生えていた山頂付近で、土壌侵食が激しく起こり、根が露出し、ブナの枯死が増えています。そこで私たちは、ササの消失が土壌生態系やブナの生育にどのような影響を与えているのかを調べました。その結果、土壌が流出することで樹木の成長に欠かせない共生菌類が少なくなっていたこと、病原菌が増えたこと、また、根が露出することでブナの成長が悪くなることなどが明らかとなりました。本セミナーでは、最新の研究成果も含めてこれまで分かってきたことを紹介します。